

シグマ研究委員会
63年度第4回運営委員会議事録（案）

日時： 昭和63年10月21日（金） 13:30～17:00
場所： 幸ビル 1305号室
出席者： 北沢（東工大）、瑞慶覧（日立）、中嶋（法政大）、
村田（NAIG）、若林（動燃）、五十嵐、長谷川、水本（原研）
幹事 菊池、中川（原研）
オブザーバー 浅見（NEDAC）、飯島（NAIG）、神田（九大）、
松延（住友原工）

配布資料

1. 63年度第3回運営委員会議事録（案）と Action list
2. Evaluation Newsletter ㄨ切りの連絡
3. International Conference “Fiftieth Anniversary of Nuclear Fission” の First Circular
4. シグマ委員会63年度旅費使用実績
5. Report of the NEANDC Subcommittee on Evaluation Cooperation
6. Status of U-238 Task Force
7. Report on the Subcommittee “Interlaboratory Working Group”
8. Status of ENDF/B-VI Standard Cross Section and ^{252}Cf Fission Spectrum
9. Status of CSEWG Evaluation for ENDF/B-VI
10. The JEF Evaluated Data File Validation of the Version 1 and Version 2 Development Status
11. 1988年核データ研究会プログラム
12. IAEA Advisory Group Meeting 報告（Influence of Target and Sample Properties on Nuclear Measurements）
13. 医学用原子分子・原子核データWGに関する検討小委員会報告
14. シグマ委員会の構成とJENDL-3以降の核データ関連分野の動向
15. データ利用基準に関する答申書（案）
16. JENDL-3以降の具体的活動および組織について

議 事

1. 議事録確認

前回会合（9月2日）の議事録（配布資料 1）を確認した。

2. 事務局報告

1) 宿題事項の処理報告

（事務局）楢山氏に連絡し、諮問・調整委の最終答申書を作成するよう依頼した。

（ 〃 ）新しい諮問・調整委はまだ開いていない。

（この他の宿題事項は後の討議事項で報告された。）

2) 幹事の交替

浅見氏が9月末で原研を退職されたので幹事を菊池康之氏と交替することが承認された。

3) その他

a. Evaluation Newsletter 42号（NNDEN42）のメ切りが11月15日であることを五十嵐氏が報告した（配布資料 2）。

b. レニングラードで開かれる核分裂50周年の国際会議の第一次案内（配布資料 3）を五十嵐氏が説明した。

c. シグマ委員会の旅費の使用実績（配布資料 4）を中川氏が説明した。また、各専門部会長から各WGの今後の開催予定が報告された。これをもとに、事務局が今後の旅費の使用予定を計算することにした。

3. NEANDC第27回会合報告

9月26日～30日、ロシアラモスで開かれた標記会合の様子を配布資料 5～10 を紹介しながら五十嵐氏が報告した。主なものは次の通りである。

1) 核データ評価の国際協力に関するNEANDCとNEACRPのタスクフォースを作ることになった。第1回会合は来年5月であり、JENDL側のメンバーを決める必要がある。

- 2) ^{56}Fe と ^{238}U の共鳴に関するタスクフォースは、 ^{56}Fe についてはレポートを作成中、 ^{238}U に関してはパラメータの再解析中である。
- 3) 測定に関する Interlaboratory WG を作ることになった。
- 4) Be のデータの現状を調査し、問題を指摘することが五十嵐氏の宿題となった。
- 5) 崩壊熱のタスクフォースを作ることになった。
- 6) Delayed Neutron の問題点については NEACRP の意見を聞いた上で Special interest リストに残すことにした。
- 7) 断面積の単位 “barn” を SI 単位系と併用できる単位として残すよう IUPAP に働きかけている。
- 8) 次回の核データ国際会議は 1991 年にユーリッヒ（西ドイツ）で行うことを検討することになった。だめなら ORNL となる。

4. 1988年核データ研究会準備報告

瑞慶覧氏が核データ研究会のプログラム（配布資料 11）を説明した。JENDL-3T の群定数調整結果については、瑞慶覧、菊池両氏で話しの内容を検討することとした。

5. IAEA Advisory Group Meeting 報告

水本氏が配布資料 12 により「Influence of Target and Sample Properties on Nuclear Measurements」に関する IAEA Advisory Group Meeting（Darmstadt, 9月5日～9日）について報告した。

6. 医学用データ ad hoc 委員会答申の代案について

五十嵐氏が医学用原子分子・原子核データWGを特殊目的核データWGのサブワーキンググループとすることを提案した。しかし、特殊目的核デ

ータWG側から反対意見が出され、討議の結果、64年度末までに限って、核データセンター直属の調査グループとし、その間にデータ評価を行えるような体制にして行くことになった。

7. 評価活動調査タスクフォース

核データ専門部会内に作られた標記タスクフォースの活動を始めたことを水本氏が報告した。

8. 諮問・調整委員会への諮問事項

「核データ活動を維持・発展させるための方策」として、今後の5年間の核データ活動について専門家会議の開催、WGの統廃合、中沢委員会が出したJENDL-3以降の活動案の具体化等を含めて検討してもらうこととした。JENDL-3以降の具体的活動に関して、神田氏が配布資料16を説明した。

9. 核データ評価の国際協力について

NEANDCとNEACRPの合同の核データ評価の国際協力に関するタスクフォースのメンバーについては、その人選を核データセンターに一任することにした。

10. その他

次回は12月16日（金）とする。主な議題は次の通り

- ・来年度計画
- ・原子力学会特別会合
- ・データ等の提供基準検討小委員会の答申（案）検討

Action List

No.	担当者	内 容	期限
1	事務局	各WGの開催予定数をもとに旅費の使用予定額を計算する。	次回
2	五十嵐	断面積の単位として「バーン」の必要性をIUPAPの日本側委員に伝える。	-
3	瑞慶覧 菊池	研究会でのJENDL-3Tの調整結果の報告について、内容および共同発表者を調整する。	11月末
4	事務局	核データ評価の国際協力に関するタスクフォースのメンバーを決める。	年内